

僕が毎日のように弟子（社員）たちに叱りながら発している言葉のひとつに「できない理由を見つけて、安心していいんだよ！」があります。できない理由がないなら、そんな仕事をしても二束三文の評価しか得られません。できない要因を潰してい

きながら、できたときに初めて他人様は評価してくれるんですから。人として生まれてきた以上は、自分しかできない仕事をしたはずじゃないのかな？その発想があれば、できない要因が見つかったときにニコツと笑うはずなんですよね。だってライバルと差をつけるチャンスなんですもん。マラソンで30km地点から始まる上り坂を利用して、自分も苦しいんだけど集団から抜け出すためにスパートをかけるようなものですね。

日本が裕福になって、普通に生きていけば幸せに長生きできる世の中になり、集団の中にあることを人生の目標にする「負けない人生」を目指している人“が増えてしまったよう

です。その人たちの最大の特徴は集団のペースが遅くなることを望んでいます。みんながペースを上げることでできない理由があつて、みんな遅く走れば楽にしても負けないので、ペースを上げようとする人間を非難する習性があります。

100万kmを10億円で走ると言うて集団で走り出したのが「国立ファーム」です。走り出したばかりの10km地点で足が痛くなってきた人がいます。丁度そのとき行く手の橋が工事で通行止めでした。それを理由に辞めていった社員がいます。その人たちが「負けない人生……」の人です。一度決めたことなのに「みんなができない理由」を見つければ継続しなくて良いと考える人たちです。「勝つ人生を目指している人」は足が痛い上に遠回りをさせられるのかよ！と考えます。「勝つ人生」の人は、できそうもない理由は自分に対する負荷でしかなく、みんなができなかったとしても自分ができなければ自分が無能なだけで相対的な評価なんか関係なく、自分ができかねないかという絶対的な自分に対する自分の評価しか興味がないんです。「負けない人生」の人は言葉の前に「他人に」が付いて、「勝つ人生」の人は前に「自分に」が付いているのです。

実は、僕が農業にやってきた理由はここにあります。農業生産者の多くの人が「負けない人生を目指している人」たちに見えるのです。競争社会で生きてきた僕にはとても大きな違和感があるのです。勿論、どんな業界でも「勝つ人生」タイプしか

いないということはありませぬし、どの業界でも嫉妬から「勝つ人生」は「負けない人生」に陰口を叩かれています。しかしその業界をリードするのは「勝つ人生」側の人であつて、陰口を叩いている「負けない人生」側ではありません。資本主義経済の弱者である農業を守るために必要悪として、農業政策は弱音を吐いて陰口を言っている側を保護するために税金を使っています。だから農業は「負けない人生」がリードしているように見えてしまうのです。

「勝つ人生」がリードする他業界と「負けない人生」がリードする農業界、若者が見て後者をカッコ良いと思うはずがありません。全農さんが応援しているカーリングの「チーム青森」の選手は年収数百万円だと思います。数億円のプロ野球選手とは比較になりません。ですが「あたしらはマイナースポーツの貧乏選手なんだから、みんなを補助してよ！」とは言っていないません。金にはなりません。勝つために努力をしているはず。そんな彼女らは少年少女から見て、イチロー選手や松井秀喜選手に負けていないヒロインです。

農業が「勝つ人生を目指す人」の業界になって、拝金主義者でない「ものづくり」が日本の先頭を走ってリードしていることを願っています。

国立ファーム有限会社

高橋がなり

サツのオコ

～早く「虎」に変わるんだ！～

第33回

できない理由を見つけて、安心していいんだよ！